

「産業社会と人間」で、関西福祉科学大学と三恵園との連携講座を行いました。

10月31日（月）の1年生の「産業社会と人間」において、関西福祉科学大学の一村小百合准教授と能勢町にある第2三恵園の福本宗之さんを招き、福祉に係る連携講座を行いました。このことが、11月1日（火）の産経新聞朝刊の記事で紹介されました。

この「産業社会と人間」では、総合学科の系列に係る内容を中心に、様々な分野のスペシャリストを招き、生徒たちに自己の在り方や生き方、将来の職業について考えさせるなど、まさにキャリア形成をめざすものとして、本校教育の大きな柱のひとつになっています。

一村准教授は、昨年度に続いてご指導くださいました。今回は「コミュニケーションと福祉の仕事」をテーマに、言葉を使わないでコミュニケーションを取るワークショップを行っていただき、福本さんから、実際の福祉の現場での体験を教えてくださいました。生徒たちにとって、福祉の理論と実践を学ぶことのできる有意義な経験となりました。

本校では、卒業後、福祉施設への就職、福祉関係の大学・専門学校等への進学を通じ、福祉の分野で活躍する人材を育てています。このような意味におきましても、三恵園をはじめとします地元の福祉施設や福祉について幅広く学ぶことのできる関西福祉科学大学等との連携を今後ともしっかりと進めてまいりたいと考えております。（校長）

＜第三種郵便物認可＞

第2三恵園職員ら授業

府立能勢高校（能勢町）で31日、総合学科の1年生約60人を対象に、関西福祉科学大（相原市）の一村小百合准教授と、障害者支援施設「第2三恵園」（同町）の職員を招いて「産業社会と人間」の授業が行われた。

能勢高総合学科

この授業は、文科省の学習指導要領で決められている総合学科の必修授業。同校は、「授業を通じて自分の将来を考える場づくりになれば」と年間約10回、外部の講師を招いた講演会やワークショップなどを行っている。今回は「コミュニケーションと福祉の仕事」をテーマに実施した。

授業では、生徒たちが言葉を使わずにコミュニケーションを取る課題に取り組んだ。

「福祉の現場」学ぶ

ただほか、第2三恵園の福本宗幸さんが、福祉の仕事の面白さや苦労などについて話した。一村准教授は「一人一人違う。人に興味を持ってかわかってほしい」と呼びかけた。

「福祉に対しての見方が変わりました」と授業を受けた井上さわさん。真鍋政明校長は「将来は、学校でできないことを課題別にとり組んでいきたい」と話していた。



言葉を使わないコミュニケーションに挑戦する生徒たち